

外部評価を終えて

2024年10月7日

第五期外部評価委員：辻 洋、内藤 能、西田 昌司

2023年度における大学各組織の諸活動及び大学全体の自己点検・評価活動を評価いたしました。各委員による評価結果は活動計画評価報告書(A表及びB表)に記載しております。

各組織の自己点検・評価活動は精粗がありますが、概ねPDCAサイクルにのっており、説明記述はエビデンスとともに整理されています。さらに、各組織に対する自己評価委員会及び大学企画評価会議の指摘は、単なる表記の不備に留まらず、中期計画との関係を求めたり、追加資料を求めたりと活動の深化を見ることができました。

一方、以下の項目に関しては現在の枠組みのある資料だけでは評価しづらいので、何らかの資料を作成し大学全体で共有するなど工夫されてはどうかと考えます。

1. 大学全体の重点項目と各組織の活動の関係。例えば IT、地域連携など複数の部署にまたがる「課題」がある場合は、大学としての方針に従って、部署間の連携や大学の理念にどう繋がっているかの確認
2. クローバーゼミ、マイナープログラム、特色プログラム、オープン科目など全学横断的な教育プログラムの必要性・十分性の一括した包括的な吟味
3. 短期間で評価することは困難でありましょうが、組織再編といった大学レベルの活動の暫定評価（狙った事項との齟齬の有無など）
4. 研究科毎の大学院生や教員による学会発表や論文投稿などの状況分析（公開時期を二ヶ月前倒しにされたことは評価できる）
5. 学習成果に対する効果を経年的に他大学とも比較可能な項目と目標値の設定

以上、いっそう活発な教育研究活動と、より効果的な自己点検・評価改善活動へのご参考となれば幸いです。

来たるべき創立 150 周年に向けて神戸女学院大学の学院理念を共有した諸活動を期し、益々のご発展をお祈り致しております。

以上